

## 中国の新型輸送機 Y-20 は何を参考に設計したか

漢和防務評論 20161106 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

2012 年 12 月に中国から新型軍用輸送機 Y-20 の写真が流布されました。その後、同機を装備した部隊が建設されたとのニュースがありません。現実には、やはりエンジンがネックになって新型機は空軍の要求レベルに達していないようで同機の大量生産は行われまいとのこと。中国空軍は、IL-76 や H-6K に搭載しているロシア製 D-30 エンジンに満足しておらず、国産エンジンの開発を待っている状況です。Y-20 の開発に際しては、ウクライナの密接な技術支援がありました。ファンボロー航空ショーにウクライナが民間輸送機 AN-178 を展示しましたが、Y-20 に外見がそっくりでした。以前から、ウクライナは中国に対し大型輸送機の設計支援を行っており、その結果 AN-178 に似てしまったのだらうと KDR は推測しています。

KDR 英国平可夫特電：

中国航空工業界の消息筋は、KDR に対し、中国空軍の新型輸送機 Y-20 (運-20) は、試作機が 2 機生産されただけで、現在邛崃基地の空軍第 20 輸送機師団で運用試験を行っている、と述べた。彼は、この試作型が大量生産に移行する計画はない、と述べた。なぜならさらに改良する必要がある、エンジンも旧式であるからだ。大量生産型の機体は、国産エンジンを搭載する予定であるが、開発を待つ必要がある、このため一定の期間が必要になろう。

ファンボロー航空ショーで、KDR はロシアのイリューシン航空機会社の権威筋に確認した：中国は、ロシアの最新型の IL-76-90 型輸送機を購入する交渉を継続することはない。このことは、中国空軍が現在輸入しつつある中古の IL-76 以外に、IL-76-90 型を大量に購入する意図はないことを意味する、と。

中国は、現在の Y-20 基本型を大量生産することはない、と KDR は考えている。これは予想通りであった。中国は、全部で 240 基の D-30 シリーズエンジンを輸入している。現在中国空軍は、新品、中古を含めて約 35 機の IL-76、約 20 機の H-6K を保有しており、これらの機体は予備エンジンが必要である。したがって Y-20 の生産にどれくらいの数の D-30 エンジンを振り向けることが出来るか？簡単に推算すると、H-6K 及び IL-76 の現役機だけで 180 基以上必要になる。

残りの 60 基が H-6K 及び Y-20 の新造機に当てることが出来る計算だ。

中国は、Y-20 用にさらに多くの D-30 エンジンを輸入することを望まないはずだ。輸入するうえで、当然政治的な制約はない。しかし D-30 は相当旧式なエンジンである。

このほか消息筋は次のように述べた：Y-20 の多くの技術は現在模索中であり、試験中である。空軍の運用試験で満足な結果が得られない段階で大量生産に入るわけにはいかない、と。消息筋は、以下のことを認めた：Y-20 の開発過程で、たしかにウクライナ技術者の支援を受けた。したがって Y-20 のエアロダイナミックスの一部は、ウクライナの AN-178 型中型輸送機を参考にした。両者の外形は確かに似ている。AN-178 は、今回ファンボロー航空ショーで展示された。ペイロードは 20 トン、当初ウクライナは中国に売り込もうとした。中国は現在までに 2 機、民用の貨物機を購入しただけである。

これは、Y-20 の開発に際しウクライナの技術支援を受けた、とする中国側技術者からの初めての情報である。

注意すべきことは、中国航空工業の専門家が KDR に述べたことである。すなわち：中国空軍は、AN-178 クラスの輸送機を欲しがっている。KDR が知り得た状況では、現在双方はこの問題について正式交渉は未だ行っていない。したがって今後 Y-20 を基礎にして、中国が双発の中国版 AN-178 を開発するかどうか、注目する必要がある。

なぜ Y-20 は AN-178 のエアロダイナミックスに酷似しているのか？

KDR がアントノフ航空機会社の総経理 VASILIIY V. BELINSKIY を取材した 2009 年の記事を見て欲しい。彼は当時次のように述べた：数年前、ウクライナは中国に大型輸送機の詳細な技術的設計提案書を渡した。同書は、およそ大型書籍に相当する膨大なもので、設計問題、使用するエンジンを含め、我々が提供できる支援の内容を詳細に説明したものである。我々は、中国がウクライナ製エンジンを搭載するよう建議した。全部で二つの設計案を提議した。一つの案は、AN-70 型輸送機の基本構造を採用したもので、エンジンは新型に換装する案であった。別の案は、IL-76 輸送機の基本設計理念、構想を採用したもので、新時代の中国空軍輸送機を設計した。

またそのほかの案として、IL-76 と AN-70 の折衷案で、総合技術性能、設計が全く新しい機体であった。實際上、AN-178 は、この理念に基づいて開発されたもので、開発期間はおおむね Y-20 と同じであった。いわば、Y-20 のエアロダイナミックスの概念は AN-178 のスケールアップにあった。

しかも AN-178 は、AN-158/AN-148-200 型民用機を基礎に改装されたものである。

したがって、ウクライナの輸送機設計専門家は、Y-20 は当時ウクライナが中国

に提供した設計案を忠実に採用した、と述べた。AN-70 及び IL-76 の混合技術が AN-178 に酷似するのは当然である。当然ウクライナの専門家は、Y-20 の外形の一部は中国人自らが微細な処理を行ったことを認めている。

**KDR**：なぜウクライナは、ロシアで設計、生産された IL-76 を総合したり折衷したりできるのか？

ウクライナ専門家：IL-76 はソ連時代にウクライナで整備し、大修理（註：IRAN に相当）した。中国空軍の早期の IL-76 もウクライナで修理した。中国の大型輸送機設計を支援するため、ウクライナは、中国の輸送機風洞試験センター建設を直接支援した。Y-20 開発はここで風洞試験を行った。

したがってウクライナ航空工業は、IL-76 の設計に相当詳しい。

ウクライナは、20 世紀末から中国の大型輸送機設計に関わってきた。しかしウクライナ専門家は、彼らが Y-20 の設計に直接介入はしていないと述べた。中国はわずか 3 年半の期間で Y-20 を試験飛行させ、空軍に引き渡した。試験飛行の期間は当時の IL-76 及び C-17 とおおむね同じである。このことから中国の大型航空機設計技術が大きく進歩していることがわかる。

Y-20 の完成は、中国が戦略爆撃機の自力開発を速めることにつながる可能性がある。

☆次ページに AN-178 の写真を添付：Wikipedia の写真から拝借

Y-20 は AN-178 のスケールアップ版のように見える。

以上

AN-178



<資料源> Wikipedia